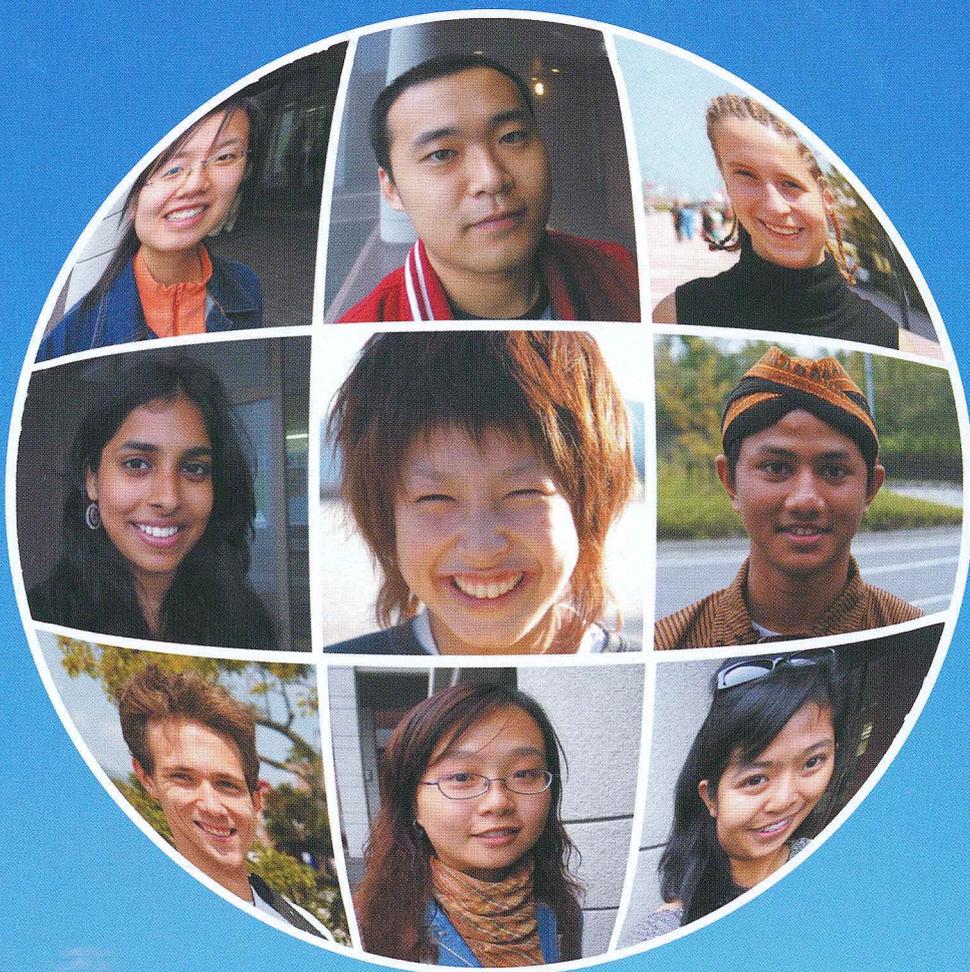


【APU開学5周年記念】

# アジア国際英語教育シンポジウム

—— アジアの英語教育最先端に学ぶ ——

2005.11.26～27



主催 立命館アジア太平洋大学(言語インスティテュート、言語研究センター)  
後援 文部科学省、大分県、大分県教育委員会、別府市、別府市教育委員会、国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部、  
The Japan Times、NHK大分放送局、朝日新聞社、西日本新聞社、読賣新聞西部本社、株式会社ウエストゲイト  
協賛 株式会社アルク、株式会社ベネッセコーポレーション、株式会社進研アド、IPUコーポレーション、  
株式会社紀伊國屋書店、丸善株式会社

# メッセージ

## 大分県知事 広瀬 勝貞

アジア国際英語教育シンポジウムが本日ここに盛大に開催されることをお喜び申し上げます。また、世界各国から、はるばる大分県ようこそお越しいただきました。県民を代表し、心から歓迎いたします。

APUは、平成12年に、アジア太平洋の未来創造という崇高な理念を掲げて開学しました。これまでの間、世界に開かれたAPUのアカデミズムの下、国際色豊かで経験豊富な先生方のご指導により、学生達は学問・研究を深く探求するとともに、世界学生サミットを通しての情報発信や地域学の実践を行い、また、インド洋大津波スマトラ沖地震被災国へのチャリティーイベントの開催、県内各地との持続的交流などの社会的な活動にも積極的に取り組んできました。その結果、APUで学んだ優秀な人材は、今や世界各国で活躍するようになっております。

このような中、APUの開学5周年を契機として、アジアの人々との連携を広げるために、英語教育に関する本シンポジウムが開催されますことは、誠に有意義なものであり、アジア太平洋地域における相互の理解や連携が、さらに深まることを確信しているところです。

これまで、本シンポジウムの開催にご尽力された方々に深く敬意を表します。

終わりに、明石康元国連事務次長をはじめ本シンポジウムにご参加されました皆さまのますますのご活躍、ご健勝をお祈り申しあげ、お祝いのあいさつとします。

## 別府市長 浜田 博

立命館アジア太平洋大学開学5周年事業として、アジア国際英語教育シンポジウムが開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

立命館アジア太平洋大学は、2000年4月に開学して以来、「自由・平和・ヒューマニズム」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」を基本理念に、アジア太平洋地域で活躍する人材養成の拠点として、地域に開かれた国際大学として高い評価を受けられるとともに、別府市も「国際交流都市」として大きく踏み出すことができました。

このような中、開学5周年事業として、今後の「アジア太平洋時代」における英語教育に焦点を当てたシンポジウムがここ別府市で行われることは、非常に価値のある、光栄なことと存じております。

別府市は、「国際観光温泉文化都市」として、ホスピタリティーあふれるまちづくりを市民挙げて取り組んでいるところであり、行政と大学、そして地域との連携体制を整えながら、地域ネットワークの拠点として、役割を発展させていくことが求められています。さらに、充実した言語コミュニケーションが成り立てば、より心がこもったおもてなしができることも確信しております。

そのために、このシンポジウムを通じてこれからの教育実践にも役立つ情報交換がなされ、参加された皆様にとって有意義な経験が得られますことを祈念いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。

## 立命館アジア太平洋大学学長 モンテ・カセム

立命館アジア太平洋大学(APU)は、人間の生命を尊重すること、そしてアジア太平洋の豊かで多様な文化から多くのことを学ぶことを目指して開学され、お蔭様にて、今年、5周年を迎えることとなりました。これまでAPUの教学を支えて下さった皆様に心から感謝申し上げます。

APUは、国内学生と国際学生(留学生)が半数ずつという学生構成、日本語と英語による二言語教育、そして世界70を越える国・地域からの学生・大学院生で構成される、国際性豊かな多文化環境のキャンパスを特徴としています。教員も概ね半数が外国籍です。APUはいわば地球の縮小版であり、この活力豊富な環境ですでに多くの卒業生が巣立ち、アジアをはじめ世界の国々でリーダーとなるべく活躍しています。

APUでは、ヒューマニズムを基礎にして、平和のために貢献し、国際社会で活躍する人材が育っています。そして、いろいろな国や地域からの人々が交わる豊かな環境の中での4年間の生活を通して、時間や空間、国、文化の壁を越えて固い友情が培われています。また英語などの国際語を学び、多くの人とコミュニケーションを取れるようになれば、国際的な視野が広がり、人生が大変豊かになります。

たとえば、この11月上旬には、国際的な相互理解と地域の活性化を促進し、自然、文化、地域社会の伝統等を保全し各地の魅力を創出・発信することをテーマに、「世界観光学生サミット」を開催しました。これには世界各地から観光の専門家や学生約1,000人がAPUに集まりました。

このように、APU学生は、国際的環境のなかで、国・地域、文化を超えた人間同士の共感を求め合い、国際的に貢献するための知識と技能を確実に培っています。

21世紀はアジア太平洋の時代といわれています。そこでは国際社会で活躍する若者に大きな期待が寄せられています。APUはこのような人材を育成するのにふさわしい学習の場であると言えるでしょう。

今回のアジア国際英語教育シンポジウムが、世界各国から集まった英語教育に携わる専門家や英語を学ぶ学生達にとって、お互いに経験や意見を交流し、おおいに学び合い、励まし合う場となり、さらに国際的にも優れた英語教育の実践を創造する新たな出発点となれば幸いです。実り多い成果を期待します。

## 開催趣意

---

国際化の進行はいまやビジネスの分野にとどまらず、あらゆる面ですすんできています。これにつれ、英語の国際言語としての地位は事実上、ゆるぎないものとなり、アジア各国では英語教育の改革が急速な勢いですすめられています。わが国でも文部科学省が「英語が使える日本人」の育成を強調して以来、全国の教育機関で急速に英語教育の改革がすすめられています。

今回のシンポジウムは、英語教育の面で近年驚異的な成果を収めているといわれているアジア各国における先進的な英語教育の実際に焦点を当て、それらの経験に学び、今後の「アジア太平洋時代」における英語教育はいかにあるべきかを探り、学ぶ場にしたいと考え、開催しました。

記念講演には、元国連事務次長・明石康氏(立命館大学客員教授)をお迎えし、国際社会を舞台に活躍された経験とその視点から日本の英語教育にいま何が求められているのか語っていただきます。また、韓国、中国、台湾、ベトナム、タイ、米国から英語教育の面で高い評価を得ている大学・高校の経験豊かな先生方をゲストとしてお招きし、英語教育の今後の方向性についてパネル・ディスカッション形式で討論していただき、翌日には実際に行われている授業を再現していただきます。この取り組みを通じて、これからの英語教育に何が求められているのかを考える一助となることを期待しております。

# プログラム

11月26日(土)【会場:ミレニアム・ホール】

時刻	行事
12:00～13:00	受付(ミレニアム・ホール入口)
13:00～13:30	歓迎行事、挨拶
13:30～15:00	記念講演「危機的状況にある日本の英語教育」 講師 明石 康氏(立命館大学客員教授、元国連事務次長)
15:00～17:30	パネル・ディスカッション テーマ:「アジアの英語教育最先端に学ぶ」 パネリスト 文龍総長(国際英語大学院大学校/韓国) 朴仁善教諭(大元外国語学校/韓国) 趙均寧副校長(上海外国語大学附属外国語学校/中国) 張武昌教授(台湾師範大学/台湾) ダン・ド・ホワンラン教諭(レ・ホン・フォン高校/ベトナム) サニャムシン・カノクワン教諭(パトゥワン高校/タイ) ドナ・プレイザー教授(トランス・パシフィック・カレッジ・ハワイ/米国) リチャード・パーウィック教授(立命館アジア太平洋大学/日本) チェア リー・フォークナー教授(立命館アジア太平洋大学/日本)
18:00～19:30	レセプション(会場:カフェテリア)

※記念講演、パネルディスカッションはすべて英語で行います。

## 明石 康(あかし やすし)氏紹介

東京大学教養学部教養学科卒業、バージニア大学大学院修了(フルブライト奨学生)

- 1957(昭和32)年 国連入り(日本人初)、事務局政治安保局、特別政治問題担当事務次長室、事務総長官房で勤務
- 1974(昭和49)年 国連日本政府代表部参事官、その後、公使、大使を歴任
- 1979(昭和54)年 国連広報担当事務次長
- 1987(昭和62)年 軍縮担当事務次長
- 1992(平成 4)年 国連事務総長特別代表(カンボジア暫定統治機構)
- 1994(平成 6)年 国連事務総長特別代表(旧ユーゴスラビア担当)
- 1995(平成 7)年 国連事務総長特別顧問
- 1996(平成 8)年 国連人道問題担当事務次長
- 1997(平成 9)年 国連退官
- 1998(平成10)年 広島平和研究所初代所長(1999年2月まで)

現在

立命館大学客員教授、スリランカ平和構築及復旧・復興担当日本政府代表、日本紛争予防センター会長、人口問題協議会会長、日本国際連合学会理事長、群馬県立女子大学外国語教育研究所所長

著書

- 『国際連合—その光と影』(岩波書店)
- 『国連ビルの窓から』(昭和59年サイマル出版会)
- 『国連から見た世界』(平成4年サイマル出版会)
- 『An Agenda for Hope...The UN in a New Era』(平成5年サイマル出版会)
- 『忍耐と希望—カンボジアの560日』(平成7年朝日新聞社)
- 『平和への架け橋』(平成8年講談社)
- 『生きることに心せき』(平成13年6月中央公論新社)
- 『サムライと英語』(平成16年5月角川書店)(共著)

## パネル・ディスカッションの紹介

APUの言語教育は"アジア太平洋の声"に耳を澄まし、また"アジア太平洋の声"を世界に届けることを開学以来の使命としてきました。この趣旨に則って、今回は東アジア、東南アジア、ハワイの各地域で中等教育および高等教育段階の英語教育に従事していらっしゃる先生方7名をお招きし、それぞれの先進的取り組みを語り合ってくださいました。「アジアの英語教育最先端に学ぶ」というパネルディスカッションのテーマにふさわしい報告・議論が聞けるものと期待しています。討議の内容はAPU言語研究センター紀要『POLYGLOSSIA(Vol. 11)』に全文掲載し、世界に送り届けます。また今回は聴衆にやさしい(audience-friendly)催しにしたいと考え、質疑の時間を潤沢に取っています。さらに、時間内に扱えなかった質問に対しては行事終了後、パネリストが直接あなたにe-mailにて回答いたします。

## 11月27日(日) 分科会A 模擬授業と討論「アジアの先進的事例に学ぶ」

テーマ スピーキングの授業をどうすすめ、学生の能動的な学習をはかるか

時刻	内容	場所
9:00～9:30	受付	
9:30～10:20	APU授業の再現 授業者:ジェームズ・ブラックウエル講師/APU 司会:トニー・クリップス助教授/APU	F107
	上海外語大附属高(中国)の授業再現 授業者:趙均寧副校長 司会:スティーブン・パティスン講師/APU	F108
	パトゥワン高校(タイ)の授業再現 授業者:サニャムシン・カノクワン教諭 司会:サイモン・バハウ講師/APU	F109
10:50～11:40	トランス・パシフィック・ハワイ・カレッジ(米国)の授業再現 授業者:ドナ・プレイサー教授 司会:伊東寿泰助教授/APU 助言:リチャード・バーウィック教授/APU	F107
	大元外国語学校(韓国)の授業再現 授業者:朴仁善教諭 司会:ユーケリア・ドナリー講師/APU 助言:文龍総長/国際英語大学院大学校	F108
	レ・ホン・フォン高校(ベトナム)の授業再現 授業者:ダン・ド・ホワンラン教諭 司会:ジョージ・ハン講師/APU 助言:張武昌教授/台湾師範大学	F109

Session A

## 11月27日(日) 分科会B 日本の先進的英語をどうつくるか

時刻	内容	場所
13:00～15:00	～「急速に変化する『新入生』と『大学入試』を見据えた、高校三年間の指導體制について(香住丘SEL-Hi事例から生まれた指導體系)」 講師 高塚 成信氏(岡山大学教育学部教授) 長沼 君主氏(清泉女子大学専任講師) 永末 温子氏(福岡県立香住丘高校教諭) 報告 福岡県立香住丘高校の「英語指導改革」事例について	F104

企画協力:ベネッセコーポレーションGTEC for STUDENTS 編集部

Session B

## パネリスト・チェアの大学・学校の紹介

### 大元外国語高校／韓国

Jung-gok 4 dong, Gwang-jin gu, Seoul,143-713, Korea

<http://daewon.seoul.kr/>

パネリスト 朴 仁善 教諭

英語はもちろん、独、仏、西、中国語の中から一つ選択して専攻とする。2年生は、義務的に日本語を学習。英語は、在学中にTOEFLで550点以上取れるように指導している。国内有数の名門大学だけでなく、海外の名門大学(IVYリーグの大学)への進学率が韓国で最も勝れている。Park教諭は、1989年から大元外国語高等学校で現在に至るまで教えている。多数の参考書を執筆。現在、韓国教育放送(EBS)に出演中。

### 国際英語大学院／韓国

449-11, Seongnae 3-dong, Gangdong-gu, Seoul,134-847, Korea

<http://english.igse.ac.kr/english/index.jsp>

パネリスト 文 龍 総長

韓国の英語教育を担う教員養成の大学院として2002年に開学した修士課程のみを運営する韓国唯一の英語教育専門大学院。付設の教育機関である国際教師教育院(Teacher Training Institute International)は、小中高の英語教師のためのソウル市教育庁指定の教育研修機関として、年間約3,500名の英語教師が教育を受けている。パネリストの文総長は、ソウル大学で英文学を専攻、アメリカ、イギリスなどで応用言語学、英語教授法を研究、帰国後、ソウル大学で永きに渡って教鞭生活を送る、韓国英語教育界の重鎮。

### レ・ホン・フォン高校／ベトナム

235 Nguyen Van Cu, Quan 5, Hochiminh city, Vietnam

<http://lehongphong.netcenter-vn.net>

パネリスト ダン・ド・ホワンラン 教諭

1927年創立のホーチミン市で最も歴史の古い学校のひとつ。1981年には数学特別クラスを設置、国家重点3高校のうちの一つに選ばれている。海外の大学へ進学する学生が多く、アメリカ・オーストラリア・イギリス・シンガポールの大学のリクルーターが頻りに学校を訪れている。ダン教諭は1988年より同校で教鞭をとり現在は英語部門の副部門長として活躍中。

### 台湾師範大学／台湾

台北市和平東路一段162號

<http://www.ntnu.edu.tw/>

パネリスト 張 武昌 教授

1946年創設。台湾の教育機関に多くの人材を輩出し、総合大学として高い評価を得ている。とりわけマンダリン・トレーニングセンターはすでに3万に近い卒業生を出し、少人数によるきめ細かい指導で定評がある。張教授は教育部(日本の文部省に相当)による初等教育、中等教育の英語教育プログラム開発プロジェクトチームの中心人物として活躍した。この4月から教養学部長。

### スリナカリンウィロット大学附属パトゥワン高校／タイ

2 Henri Dunant Road Patumwan, Bangkok 10330, Thailand

<http://www.epts.satitpatumwan.ac.th>

パネリスト サニャムシン・カノクワン 教諭

スリナカリン・ウィロット大学の教育学部の下におかれている附属高校で、タイのトップ校と評価されている。英語をはじめ、日本語、フランス語など外国語教育にも力を入れている。1997年よりタイで初めてタイ語と英語による二言語教育を導入した。先進的な教育システムによって優秀な学生を多く生み出しているため、タイ国内で数々の表彰も受けている。主な進路先は、タイの有名国立大学。

### 上海外国語大学附属外国語学校／中国

上海市虹口区中山北一路295号

[http://www.sfls.cn/ch/ch\\_index.asp](http://www.sfls.cn/ch/ch_index.asp)

パネリスト 趙 均寧 副校長

1963年創設された外国語専門高校で、英語科はじめ日、仏、独、露、西の語学科がある。進学率は100%、うち約20%が海外の名門大学に進学。英語の成績は全国一位と評価されている。「聞く、話す、読む、書く、訳す、演説する、弁じる」の七本柱の言語教育を行っている。趙副校長は2001年と2005年の2回にわたって全中国外国語学校英語教育コンクールで優勝、現在は全中国外国語学校英語教材『総合英語教程』の副編集長として活躍中。

**トランス・パシフィック・ハワイ・カレッジ / 米国**

5257 Kalanianaʻole Highway, Honolulu, Hawaii 96821, U.S.A.  
<http://www.transpacific.org/>  
 パネリスト ドナ・プレイザー 教授

米国4年制大学への編入を目指す英語を母国語としない学生のために開設されている2年制大学。学生のほとんどは日本人。少人数クラス(10人以下)の徹底した英語教育が行われている。休暇をいっさい与えず、2年間をフルに使って英語と一般教養科目を履修させる。卒業生は米国だけでなく、カナダ、アメリカその他の英語圏の大学に進学している。プレイザー教授は、基礎段階であるESL(英語集中講座)のコーディネータとして活躍している。

**立命館アジア太平洋大学 / 日本**

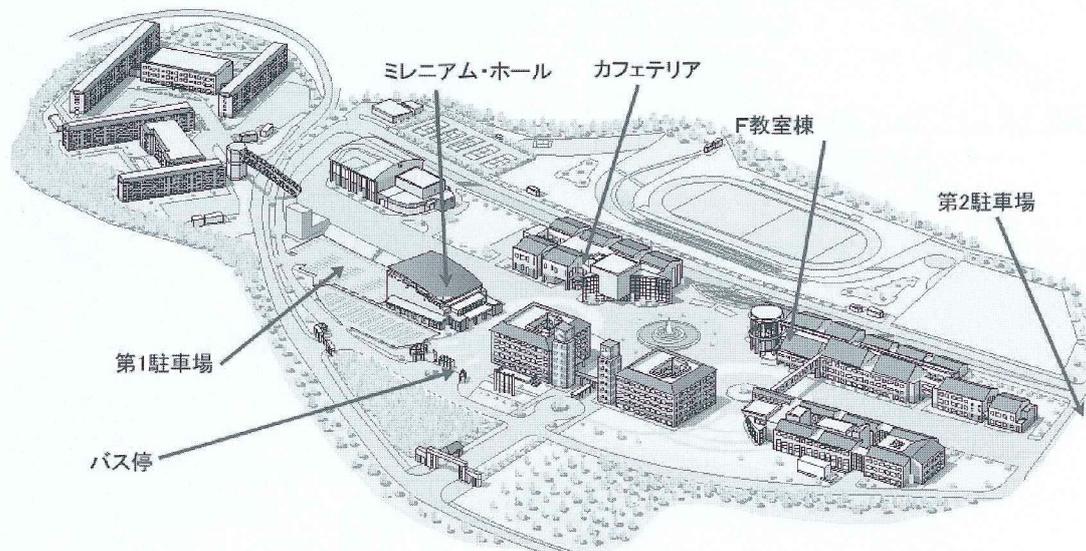
874-8577 大分県別府市十文字原1-1  
<http://www.apu.ac.jp/>  
 パネリスト リチャード・バーウィック 教授  
 チェア リー・フォークナー 教授

2000年開校。学生の約45%は世界70数カ国からの留学生で、日英二言語教育を特色としている。バーウィック教授はカナダ・ブリティッシュコロンビア大学で言語学の博士号を取得、現在APU言語インスティテュート副所長を務める。第二言語に関する試験方法や第二言語と文化学習の関連性等に関する分野で多く執筆している。フォークナー教授は、カナダ・ブリティッシュコロンビア大学で教育学の博士号を取得、同大学で教鞭をとるだけでなく、カナダの小学校・中学校でも教鞭をとり、管理職を務めるなど豊かな教育経験をもっている。APU赴任前はダナン大学(ベトナム)では英語教育に携わるとともにカリキュラムの開発にあたった。本学1年生用科目「学習技法」のテキスト・補助教材は同教授の最新の開発教材である。

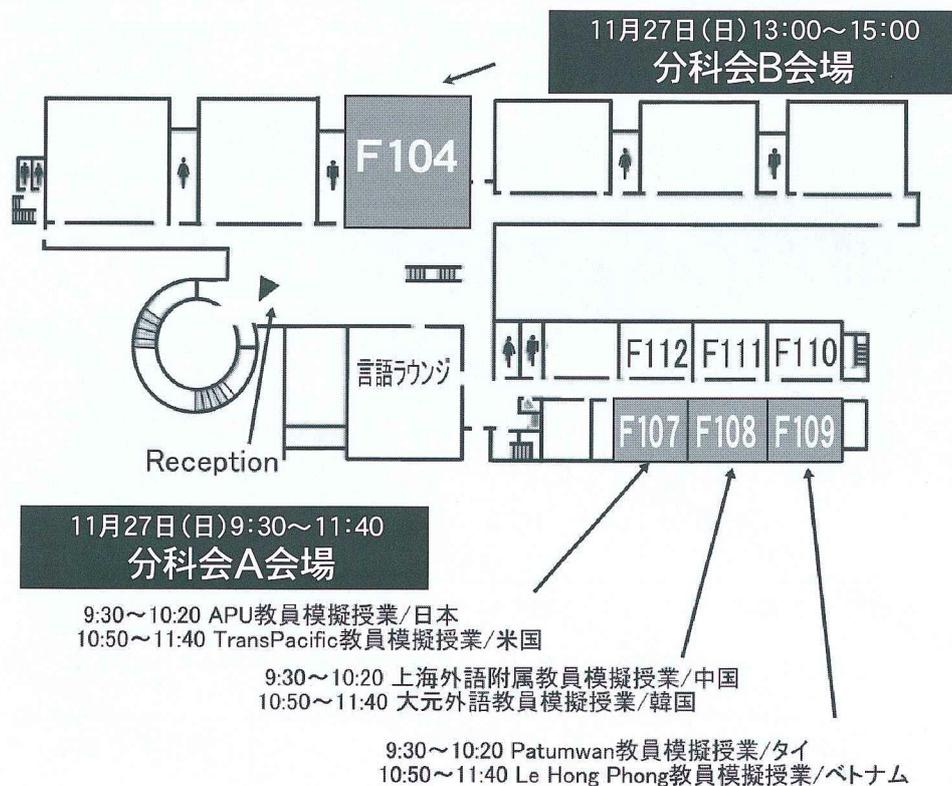
**歓迎行事と出演サークルの紹介**

	上演演目	サークル	サークル代表
26日(土) ミレニアムホール	<b>日韓合同太鼓演奏</b>	サムルノリ「シンミョン」 和太鼓「楽」	代表 橋本 佳奈枝 代表 浅利 善然
	「シンミョン」: 韓国の伝統音楽であるサムルノリの演奏を通じて、韓国伝統文化を学び、韓国人・日本人・在日Koreanなどさまざまな背景を持った部員同士が交流するとともに、国際理解につなげる活動を行っている。 和太鼓「楽」: 創立5年目の団体。中国、香港、モンゴルでの公演も行っている。代表曲には、温泉の音を表現した別府ならではの曲『湯源』やAPUに吹く強い風に慢心を吹き飛ばしてほしいとの願いを込めたオリジナル曲『風』、『十文字原』などがある。		
26日(土) ミレニアムホール	<b>七頭舞(ななずまい) 26日ミレニアムホールで</b>	舞“楽”	代表 橋本 早苗
	舞“楽”は岩手県岩泉町小本に伝わる『七頭舞』を中心に行っている日本伝統芸能サークル。『七頭舞』の由来は同地方に伝わる黒森神楽とされ、七つの道具と舞の踊りが七つあるところからその名がつけられた。また、この舞は豊作祈願を表しており、とても活発な舞になっている。		
26日(土) カフェテリアで	<b>サマン・インドネシア 伝統芸能</b>	アプイナ	代表 テナルディ エルリナ
	インドネシアの言語と文化を紹介し、異文化体験、多文化交流などのイベントに参加することを目的に創られた。100人以上のメンバーからなる。		
26日(土) カフェテリアで	<b>セビリア舞踊</b>	Chipsa Latina	代表 塩田 紗希
	スペイン語学習を通じてスペイン語圏の文化を体感できる環境を作る目的で創られた団体。スペイン語初級会話、スペインの伝統舞踊、アンデスの伝統演奏、スペイン映画の上映など幅広い活動を行っている。		
26日(土) カフェテリアで	<b>GOSPEL☆SOUL</b>	アカペラ	代表 木下 晴菜
	歌を通して国際交流を図るとともに、老人ホームへの慰問などボランティア活動を積極的に行っている。		

# APUキャンパス案内



## F棟教室図

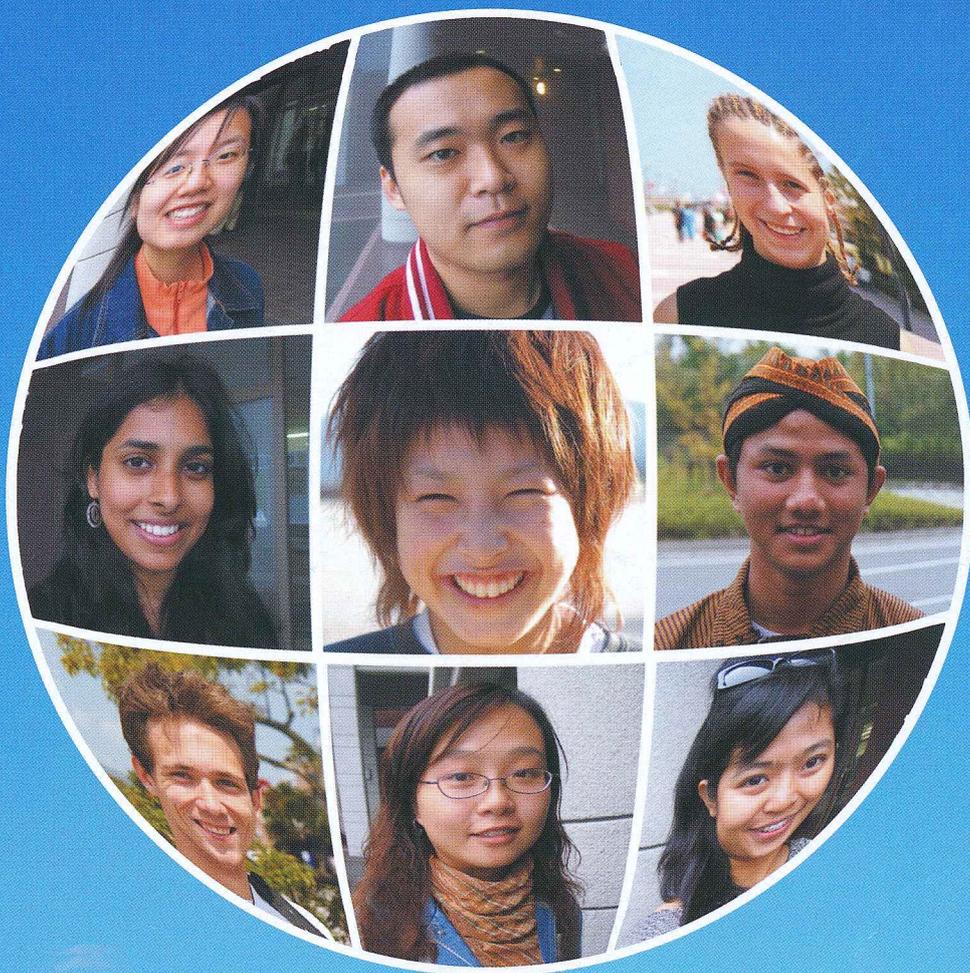


2階以上への立入りはご遠慮ください。

# International Symposium for English Education in Asia

the 5th Anniversary of APU

Nov. 26–27, 2005



## Organizer

Ritsumeikan Asia Pacific University  
(Language Institute, Center for Modern Language Research)

## Supporting Bodies:

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology; Oita Prefecture; Oita Prefectural Board of Education; Beppu City; Beppu City Board of Education; The Asahi Shimbun; Council on International Education Exchange Japan (CIEE); Japan Broadcasting Corporation (NHK) Oita Station; The Japan Times; The Nishi Nippon Shimbun; The Yomiuri Shimbun, Seibu

## Co-Sponsor:

ALC Co; Benesse Corporation; IPU Corporation; Kinokuniya Company Ltd.; Maruzen; Shinken Ado-Corporation; Westgate Corporation

# Messages

---

## **Katsusada Hirose, Governor of Oita Prefecture**

I am delighted at being able to write these few words of welcome at the occasion of the International Symposium for English Education in Asia, held in celebration of APU's 5th anniversary. As representative of the citizens of Oita, I would like to extend a warm welcome to the many visitors who have come from around the world to join the symposium.

APU was founded in the year 2000 with the noble goal of creating the future of the Asia Pacific region. APU students pursue knowledge through study and research under the guidance of experienced instructors in an environment that is literally opened to the whole world. They put their newly acquired skills into practice by participating in a wide range of social activities.

The World Tourism Summit, for instance, allowed APU students to be involved in information sharing and regional studies. The several charity events that were organized by APU students to assist victims of the tsunami disaster in the Asia Pacific region are another good example of the social involvement of the students. And we should not forget to mention that in the past years, APU students have engaged in ongoing exchange activities with the local community.

I am convinced that after graduation, these outstanding students will be able to display their talents on the international stage.

I believe that this international English symposium, organized in celebration of APU's 5th anniversary, is a truly meaningful event that will strengthen ties between the Asian nations and will contribute to and further deepen mutual understanding in the Asia Pacific region. Let me also take up this opportunity to express my deepest respect for all those who have worked so hard toward the realization of this symposium.

Finally, I would like to send my kindest regards to Prof. Akashi, former UN Undersecretary-General, and all those who are participating in this symposium. I wish you all long health and continued success in your future endeavors.

## **Hiroshi Hamada, Mayor of Beppu City**

It is a great pleasure to write this introductory message to the International Symposium for English Education in Asia that marks the 5th anniversary of Ritsumeikan Asia Pacific University.

APU opened its doors in April 2000 and has since come to be recognized as an international university that provides high quality education, grounded on the ideals of freedom, peace and humanity. The university is dedicated to the enhancement of international communication and understanding and thereby actively assists in creating the future of the Asia Pacific region. Since its establishment, it has functioned as a center for human resources development in the Asia Pacific area. Over the years, the university has reached out to the local community and its location in Beppu has allowed our city to become more involved in international exchange.

I therefore consider it a great honor that Beppu City will serve as the stage for this symposium that will address the theme of English language education in the Asia Pacific era.

Beppu City and its citizens are currently making efforts to revive the hospitality sector, promoting its image as a tourist hot spring resort. As a result, there is a real need for a centralized network that combines the resources of city and regional administration with that of local academic institutions. I am convinced that smoother and better communication will contribute to better hospitality service.

This symposium constitutes an invaluable opportunity to exchange information on actual teaching practices and I therefore have no doubt it will be a most rewarding experience for all who participate in it.

---

## Monte Cassim, President of Ritsumeikan Asia University

Ritsumeikan Asia Pacific University (APU) was established five years ago as an educational institute that values human life and aims to learn from the dynamic cultural diversity that characterizes the Asia Pacific region. Thanks to the efforts and support of the local community and many corporate bodies, public and private institutions and individuals, we are able to celebrate our 5th anniversary this year. I would like to take up this opportunity to express my most heartfelt gratitude to all those who have supported APU and its academic philosophy over the past years.

There are a few characteristics that make APU a truly unique university. APU's student body consists of a nearly equal ratio of domestic and international students. Our international students have come from over 70 countries and regions, thereby contributing to our multicultural campus where bilingual education (Japanese and English) is the standard. This international atmosphere however, is not limited to our student body but can be found among our faculty as well, as approximately half of the professors and instructors teaching at APU are foreign nationals. APU can therefore truly be said to be a miniature model of the world and having benefited from this invigorating and inspiring environment, our graduates currently excel in a wide variety of industries, on their way to becoming future leaders in Asia and across the rest of the world. APU's aim is to equip its students with the skills necessary to take on the global stage and serve the international community to create a better future.

Our students, who have come from all over the world, are able to share many years of precious college life with their peers on this multicultural campus, experiencing different cultures and values, thereby literally transcending the walls of time, space and nationality, fostering friendship for life and disseminating the alumni network all across the world. Furthermore, all students study the English language that has become so important as a communication tool in this global age, thereby cultivating a broader and more international perspective, which hugely contributes to the quality of their lives.

The World Students Tourism Summit that was organized earlier this month is a good example. The Summit's purpose was to deepen international and mutual understanding as well as revitalize the local regions by generating and disseminating information on the most attractive features of various regions. In so doing, it also aimed to preserve local culture and tradition, and the local natural environment. Approximately 1000 tourism experts and students traveled from all the corners of the globe to attend this event at APU.

Living in such an international mini-society, our students learn to cultivate sympathy for their fellow human beings, free from (inter)national, regional or cultural prejudice.

The 21st century is often referred to as the Asia Pacific era and the international community holds great expectations for the young generations that will rise up to the challenges that will accompany this new Asia Pacific age. I believe there can be no better place to cultivate the international human resources of tomorrow than here at APU.

I am convinced that the International Symposium for English Education in Asia will be an excellent opportunity to exchange opinions and experience for the many experts in English pedagogy that have gathered here from different countries and regions, and the students that are ardently continuing their study of English. It is my hope that the symposium may pave the way for further development in advanced English language education and I look forward to hearing about the future achievements that will emerge out of it.

# Symposium Overview

---

Internationalization is currently advancing on many levels, extending far beyond the business world. Accompanying this development, the English language has increasingly gained importance as a tool for international communication and as a result, English language education reforms have rapidly been undertaken throughout numerous Asian countries. Similar reforms have been implemented in Japan, prompted by a call for more efficient English language education by the Japanese Ministry of Education (MEXT).

The goal of this symposium is to focus on some examples of progressive English language education techniques and methods that have been implemented in various Asian countries and are producing notable results. At the same time, the symposium panelists and participants will ponder the question of what direction English language education should take in the future to meet the needs of the coming Asia Pacific age.

The symposium will open with a commemorative lecture by Prof. Yasushi Akashi, Visiting Professor to Ritsumeikan University and former UN Undersecretary-General, who for many years has been active on the international stage. Based on his experience, Mr. Akashi will speak about what is currently expected and required from English language education in Japan.

The second part of the symposium will consist of a panelist discussion, featuring specialists from Korea, Mainland China, Taiwan, Vietnam, Thailand and the U.S.A. Our panelists were selected from educational institutions that have received wide public recognition for their English language programs. They will share their wealth of knowledge and experience, not only by participating in a panel discussion on the direction of English language education in the future, but also by demonstrating teaching methods as implemented in their respective schools.

This symposium is not just for the professional English instructor but for anyone who has a genuine interest in English language education.

# Program Schedule

## Saturday, November 26 (Millennium Hall)

12:00~	Reception (entrance of Millennium Hall)
13:00~	Welcome Address, Introductions
13:30~	Keynote Speech " <b>Japanese English Education at a Critical Stage</b> " Lecturer: Prof. Yasushi Akashi (Visiting Professor at Ritsumeikan University, former UN Undersecretary-General)
15:00~17:30	Panel Discussion Theme: <b>Innovations in English Education for Asia's New Century</b> Panelists Chang Wuchang (Professor at National Taiwan Normal University, Taiwan) Donna Prather (Professor at TransPacific Hawaii College, U.S.A) Moon Yong (President of International Graduate School of English, Korea) Park In Sun (Instructor at Daewon Foreign Language High School, Korea) Sa-Ngiamsin Kanokwan (Instructor at Patumwan Demonstration School, Srinakharinwirot University, Thailand) Dang Do Hoang Lan (Instructor at Le Hong Phong High School for Gifted Children, Vietnam) Zhao Junning (Vice Principal of Shanghai Foreign Language School, China) Richard Berwick (Professor at APU, Japan) Chair Leigh Faulkner (Professor at APU, Japan)
18:00~19:30	Welcome Party (Cafeteria)

The commemorative lecture and the panelist discussion will be held in English.  
A simultaneous interpretation service will be provided. Please pick up a headset from the reception desk if you need a translation.

### Prof. Yasushi Akashi: Introduction

Graduate of the Faculty of Education, The University of Tokyo.  
Graduate studies completed at the University of Virginia (Fulbright scholarship)

- 1957 First Japanese person to work for the United Nations. Served on the Secretariat of the Security Council, the Department of Political Affairs (Office of the Undersecretary) and the Office of the Secretary-General.
- 1974 Counselor, Special Envoy and Ambassador to the Permanent Mission of Japan to the United Nations
- 1979 Undersecretary-General of Public Information
- 1987 Undersecretary-General for the Department of Disarmament Affairs
- 1992 Special Representative of the Secretary-General to Cambodia
- 1994 Special Representative of the Secretary-General to former Yugoslavia
- 1995 Special Advisor to the Secretary-General
- 1996 Undersecretary-General of Humanitarian Affairs
- 1997 Retired from the UN
- 1998 First Director of Hiroshima Peace Institute (until February 1999)

#### Present

Visiting Professor to Ritsumeikan University, Japanese representative for the reconstruction and relief efforts in Sri Lanka, Director of the Japanese Conflict Prevention Center, Director of the Commission on Population Issues, Japanese International Association Chairman, Director of Gunma Prefectural Women's University Foreign Language Research Institute

#### Publications

- The United Nations - the Bright and the Dark Side (Iwanami Books)
- Seen through the UN Window (1984 Simul Press Inc.)
- A View from the United Nations (1992 Simul Press Inc.)
- An Agenda for Hope - The UN in a New Era (1993 Simul Press Inc.)
- Patience and Hope - 560 days in Cambodia (1994 Asashi Shimbun)
- The Bridge to Peace (1996 Kodansha)
- Impatient to Live (June 2001, Chuokoron Shinsha)
- English and the Samurai (May 2004, Kadokawa Shoten Publishing co.)(co-author)

### Panelist discussion: Topic

Ever since Ritsumeikan Asia Pacific University was established, APU's language education has been open to the voice of the Asia Pacific community and has attempted to spread its message to the world. It is in this spirit that APU has invited eight international instructors to participate in this international English language education symposium. The eight instructors have been teaching at renowned junior and senior high schools, colleges and universities throughout East Asia, South East Asia and Hawaii. They will share their views and report on several progressive teaching techniques and methods that have been implemented at their respective schools. Especially worthy of note, will be the panel discussion that will focus on the theme: "Learning from Asian Pioneers in English Language Education". The content of this panel discussion will be published in the academic journal "Polyglossia"(Vol.11), issued by the Center for Modern Language Research (APU), and thereby made accessible to the general public.

All efforts have been made to make the symposium as audience-friendly as possible and necessary arrangements shall be made to allow for ample Q & A time. Questions that cannot be raised during the symposium will be answered directly by email after the symposium.

## Sunday, November 27

### Session A Demonstration and Discussion

Learning from Asian Pioneers: Case Studies

Time		Venue
9:00~ 9:30	Reception	
9:30~ 10:20	<b>Demonstration Lesson</b> Instructor: James Blackwell, APU/Japan Moderator: Tony Cripps, APU/Japan	F 107
	<b>Demonstration Lesson</b> Instructor: Zhao Junning, Shanghai Foreign Language School/China Moderator: Steven Pattison, APU/Japan	F 108
	<b>Demonstration Lesson</b> Instructor: Sa-Ngiamsin Kanokwan, Patumwan Demonstration School/Thailand Moderator: Simon Bahau, APU/Japan	F 109
10:50~ 11:40	<b>Demonstration Lesson</b> Instructor: Donna Prather, TransPacific Hawaii College/USA Moderator: Hisayasu Ito, APU/ Japan Advisor : Richard Berwick, APU/ Japan	F 107
	<b>Demonstration Lesson</b> Instructor: Park In Sun, Daewong Foreign Language School/ Korea Moderator: Donnery Eucharia, APU/ Japan Advisor : Moon Yong, International Graduate School of English/ Korea	F 108
	<b>Demonstration Lesson</b> Instructor: Dan Do Huang Lan, Le Hong Phong High School for Gifted Children/ Vietnam Moderator: George Hann, APU/ Japan Advisor : Chang Wuchang/ Taiwan Normal University /Taiwan	F 109

*Session A*

### Session B Developing Progressive Language Education in Japan

By Benesse Corporation GTEC for Students (editorial department)

Time		Venue
13:00~ 15:00	This forum will focus on instruction of high school students, considered against the background of the continuously evolving examination system and the rapidly changing face of new university entrants. (Instruction policy that emerged out of the Kasumigaoka SELHI case study.) Speakers: Shigenobu Takatsuka, Professor / Okayama University Naoyuki Naganuma, Lecturer / Seisen University Haruko Nagasue, Teacher / Fukuoka Kasumigaoka High School	F 104

*Session B*

## Introducing our panelists and their affiliated schools:

### Daewon Foreign Language High School, Korea

Jung-gok 4 dong, Gwang-jin gu, Seoul, 143-713, Korea

<http://daewon.seoul.kr/>

Panelist: Mr. Park In Sun, Instructor

Students at the Daewon Foreign Language High School choose one language from English, German, French, Spanish or Chinese and major in it. Second year students are required to take Japanese. One of the aims of the English program is to help students obtain a 550 TOEFL score. Every year, new graduates of the school enroll successfully, not only at leading national universities such as Seoul University, Korea University, Yonsei University and Ehwa Woman's University, but also abroad, at the prestigious universities of the Ivy League in the U.S.A. Our panelist, Mr. Park In Sun, has been teaching at Daewon Foreign Language High School since 1989. He is the author of several reference works on English language education and currently instructs English on the Korean Educational Broadcasting Channel (EBS).

### International Graduate School of English (IGSE), Korea

449-11, Seongnae 3-dong, Gangdong-gu, Seoul, 134-847, Korea

<http://english.igse.ac.kr/english/index.jsp>

Panelist: Mr. Moon Yong, President

The International Graduate School of English (IGSE) was established in 2002 with the aim of training Korea's future English language instructors. It is the only graduate school in the country that is solely dedicated to English language education and it is affiliated with the Graduate Teacher Training Institute International (TTI Int'l). This institution was appointed by the Seoul Education Board to train teachers for Korean elementary, junior and senior high schools and accepts approximately 3,500 students every year. Our panelist, Professor Moon Yong, is the President of the International Graduate School. He spent time in both England and the U.S.A., conducting research in applied linguistics and English pedagogy, after which he returned to Korea and obtained a teaching position at Seoul University. He is currently regarded as an authority on English language education in Korea.

### Le Hong Phong High School for Gifted Children, Vietnam

235 Nguyen Van Cu, Quan 5, Hochiminh city, Vietnam

<http://lehongphong.netcenter-vn.net>

Panelist: Ms. Dang Do Hoang Lan, Instructor

Founded in 1927 and located in Ho Chi Minh City, Le Hong Phong High School is one of the oldest schools in the country. In 1981, it established a special math course and was selected as one of three elite schools by the Vietnamese government. Many graduates pursue further studies overseas. Recruiting officers from America, Australia, England and Singapore often visit the school. Our panelist, Ms. Lan, has been an instructor at the school since 1988 and is currently active as the Deputy Director of the English department.

### National Taiwan Normal University, Taiwan

162 Sec. I, Hoping East Road, Taipei, Taiwan

<http://www.ntnu.edu.tw/>

Panelist: Mr. Chang Wuchang, Dean of the College of Liberal Arts

The National Taiwan Normal University was founded in 1946. It has obtained wide public recognition for its language education. Its graduates can be found teaching at educational institutions throughout Taiwan. Its Mandarin Chinese training center has seen approximately 30,000 students graduate and is renowned for its small-group instruction. Professor Vincent Wu Chang is currently a professor at the National Taiwan Normal University but he is also the key figure in a development team for English language education, led by the Taiwanese Ministry of Education. Last April, he was promoted to Dean of the College of Liberal Arts.

### **Patumwan Demonstration School, Srinakharinwirot University, Thailand**

2 Henri Dunant Road Patumwan, Bangkok 10330, Thailand

<http://www.epts.satitpatumwan.ac.th>

Panelist: Ms. Sa-Ngiamsin Kanokwan, Instructor

The Patumwan Demonstration School, affiliated with the Department of Education of the Srinakharinwirot University, ranks among the top schools in Thailand. Over the years, it has continually invested in its five language programs, placing particular emphasis on English, Japanese and French. It was the first school to introduce bilingual Thai-English education in the country in 1997. Through its progressive education system, it consistently produces excellent students and this has earned the school several national awards in the past. Most of the graduates enroll at famous national universities.

### **Shanghai Foreign Language School, China**

295 Zhongshan Beiyilu, Hongkou-qu, Shanghai, China

[http://www.sfls.cn/ch/ch\\_index.asp](http://www.sfls.cn/ch/ch_index.asp)

Panelist: Mr. Zhao Junning, Vice Principal

Shanghai Foreign Language School was founded in 1963 and hosts a variety of language departments including English, Japanese, French, German, Russian and Spanish. All of the school's graduates continue on to higher education, with 20% enrolling at famous universities abroad. The English program focuses on the following seven skills: listening, speaking, reading, writing, translating, presenting and debating. Our panelist Mr. Zhao Junning has won the Chinese national contest for foreign language education twice between 2001 and 2005. He was also the associate editor of a general textbook for English language education that is currently used throughout foreign language schools across China.

### **TransPacific Hawaii College, U.S.A**

5257 Kalaniana'ole Highway, Honolulu, Hawaii 96821, U. S. A.

<http://www.transpacific.org/>

Panelist: Ms. Donna Prather, Professor

The TransPacific Hawaii College offers a two-year program aimed at non-native speakers of English who wish to enroll at a regular (four-year) English university. Its program is characterized by small-group instruction (ten students or less). Students are not allowed a single break during the two year program in order to maximize their learning experience at the school. Both English and general courses are offered. Graduates pursue higher studies in the U.S.A, Canada and other English speaking countries. Professor Prather is currently coordinator of the ESL (intensive English language) classes, which constitute the basic level of the program.

### **Ritsumeikan Asia Pacific University, Japan**

1-1 Jumonjibaru, Beppu City, Oita, 874-8577, Japan

<http://www.apu.ac.jp/>

Panelist: Richard Berwick, Professor, Deputy Director of APU Language Institute

Chair: Leigh Faulkner, Professor

Ritsumeikan Asia Pacific University opened its doors in 2000. It is a bilingual (Japanese-English) university that has approximately 50% of its student body comprised of international students, representing over 70 countries. Professor Berwick holds a doctorate in education (EdD) from the University of British Columbia, where he was a member of the Dept. of Language Education, and is currently the Deputy Director of the APU Language Institute. He has published in such fields as second language testing, methodology and the intersection of second language and culture learning.

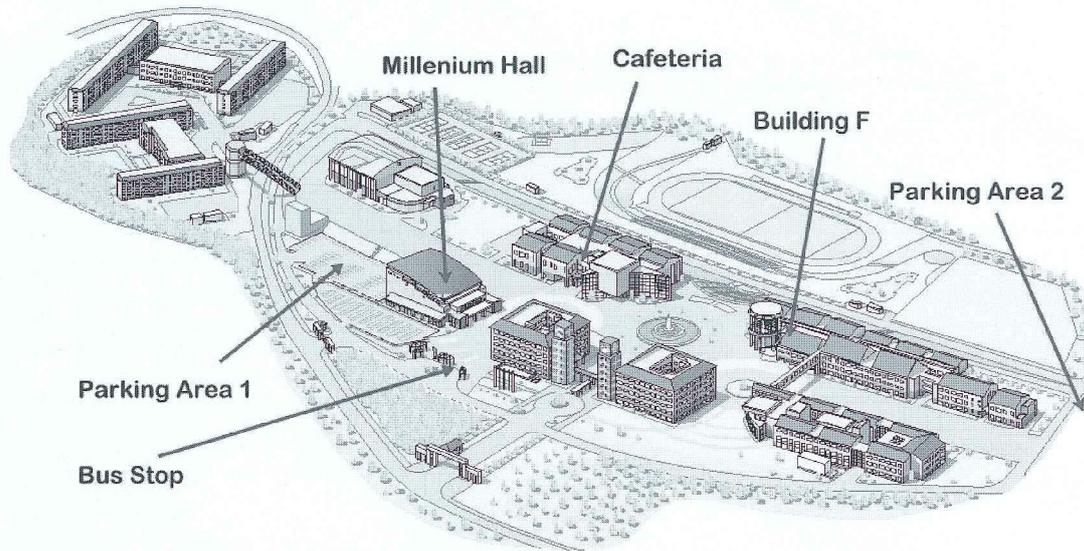
A member of the College of Asia Pacific Studies at Ritsumeikan Asia Pacific University, Professor Faulkner also holds a doctorate in education (EdD) from the University of British Columbia. He has extensive experience in teaching and administration at elementary and secondary schools in Canada, as well as teaching at the University of British Columbia. He was an instructor and curriculum developer at the University of Danang, Vietnam prior to his service at APU. His most recent publications include a text and support materials for instruction in study skills for first semester students at APU.

## Welcome Events & Student Club Performances

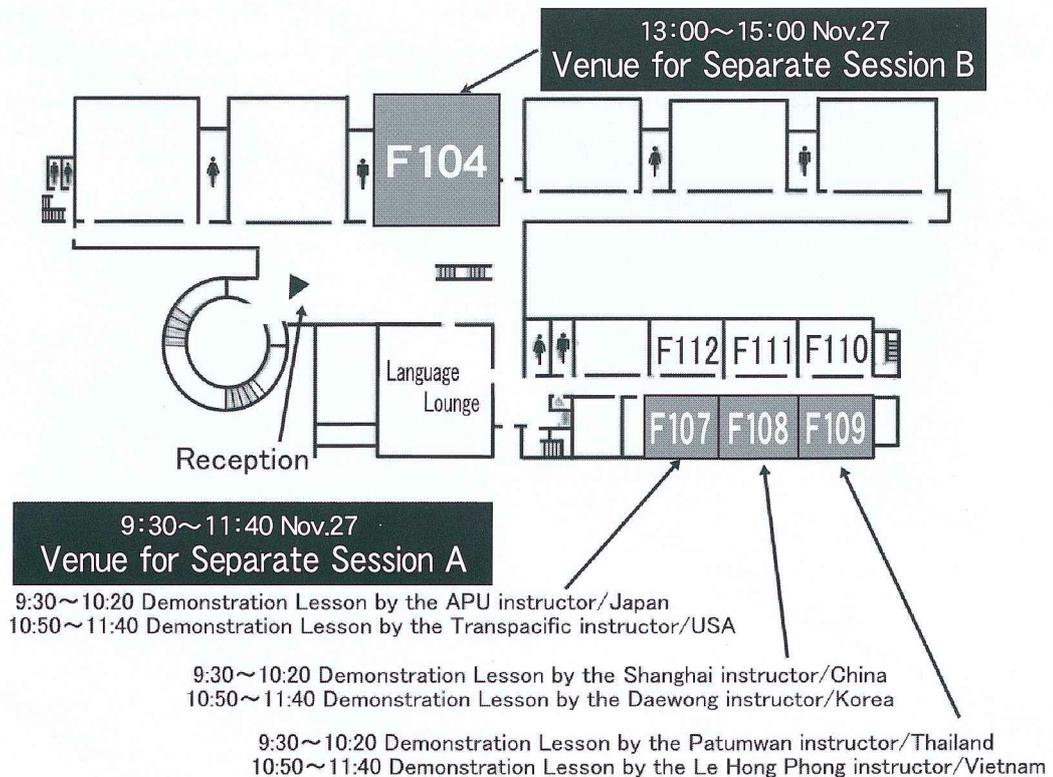
	Performance	Student Club	Representative
<b>26/11</b> Millenium Hall	<b>Japan Korea Joint Drums</b>	Samulnori "Sinmyon" Wadaiko (Japanese drums) "Raku"	Repr: Ms. Kanae Hashimoto Repr: Mr. Zennen Asari
	<p>Sinmyon: The purpose of this student club is to study traditional Korean culture through playing 'Samulnori', a traditional Korean musical instrument, and to foster friendship among Japanese and Koreans living in Japan.</p> <p>Raku: This club was established 5 years ago and has performed in China, (including Hong Kong) and Mongolia. It has composed its own music including the song Tougen, that aims to capture the sound of the hot springs in Beppu, the song "Wind", that urges the wind to chase away our passiveness, and the song "Jumonjibaru", etc.</p>		
<b>26/11</b> Millenium Hall	<b>Nanazumai</b>	Mairaku	Repr: Ms. Sanae Hashimoto
	<p>Mairaku: a traditional Japanese student club that focuses on the Nanazumai dance. This dance originated in the region of Omoto in Iwaizumi City, Iwate Prefecture and has its roots in the Kuromori Kagura dance from the same region. It includes seven tools and seven dances, hence the name "nana zumai", "nana" being the Japanese word for seven. (nana-zu-mai = the seven-head-dance). This dance is performed as a prayer for a bountiful harvest and is very dynamic and exciting to see.</p>		
<b>26/11</b> Cafeteria	<b>"SAMAN" Indonesian performance</b>	APUina	Repr: Ms. Tenardi Elrina
	<p>This club aims to introduce Indonesian language and culture. Its main purpose is to experience and engage in multicultural exchange. The club counts over 100 members.</p>		
<b>26/11</b> Cafeteria	<b>Spanish Sevillana Traditional Dance</b>	Chipsa Latina	Repr: Ms. Saki Shiota
	<p>This club was formed by APU students of Spanish. Their goal was to create an environment that would allow students to experience the culture(s) of the Spanish speaking countries. Club activities include beginner Spanish conversation, traditional Spanish dance, traditional Andes musical performances, Spanish cinema.</p>		
<b>26/11</b> Cafeteria	<b>GOSPEL☆SOUL</b>	A Capella	Repr: Ms.Haruna Kinoshita
	<p>GOSPEL☆SOUL aims to engage in international exchange through singing. They have also been involved in a number of volunteer activities such as visits to nursing homes.</p>		



# APU CAMPUS MAP



## BUILDING F



*Visitors are requested to remain on the 1st floor.*